



平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年8月2日

上場取引所 東大

上場会社名 参天製薬株式会社

コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明

問合せ先責任者 (役職名) コーポレート・コミュニケーショングループ (氏名) 日比 貴史

TEL 06-6321-7007

四半期報告書提出予定日 平成23年8月5日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	27,850	6.2	7,762	17.0	8,188	14.6	5,526	20.7
23年3月期第1四半期	26,212	△10.5	6,637	△35.6	7,147	△31.8	4,578	△30.1

(注)包括利益 24年3月期第1四半期 6,020百万円 (89.6%) 23年3月期第1四半期 3,176百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
24年3月期第1四半期	63.43		63.36	
23年3月期第1四半期	53.79		53.72	

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	円	銭	円	銭
24年3月期第1四半期	182,007		158,164	86.7	1,811.99			
23年3月期	184,801		156,404	84.5	1,793.15			

(参考)自己資本 24年3月期第1四半期 157,860百万円 23年3月期 156,098百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
23年3月期	—	40.00	—	50.00	90.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	50.00	—	50.00	100.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	57,300	6.3	14,500	2.7	14,800	2.1	10,000	7.8	117.05	
通期	116,000	4.7	30,000	△2.4	30,500	△3.1	20,500	△3.9	239.95	

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期1Q	87,120,803 株	23年3月期	87,053,103 株
② 期末自己株式数	24年3月期1Q	840 株	23年3月期	464 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期1Q	87,118,307 株	23年3月期1Q	85,118,088 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	6
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	6
2. サマリー情報（その他）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
(4) 追加情報	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報等	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
4. 連結参考資料	12
(1) 主要製品売上高	12
(2) 医薬品開発状況	13
(3) 設備投資、減価償却費、リース料および研究開発費の実績ならびに見込額	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

① 当第1四半期連結累計期間の業績の状況

国内医療用眼科薬市場は、抗アレルギー剤、網膜疾患治療剤および角結膜疾患治療剤の伸長により、前年同期と比べ拡大しました。一方、海外医療用眼科薬市場は、アジアでは堅調に推移しました。国内一般用眼科薬市場は、需要の減少により、前年同期と比べ縮小しました。

このような状況下、当第1四半期の業績は、以下のとおり増収増益となりました。

(単位：百万円)

	前第1四半期	当第1四半期	前年同期増減率
売上高	26,212	27,850	6.2%
営業利益	6,637	7,762	17.0%
経常利益	7,147	8,188	14.6%
四半期純利益	4,578	5,526	20.7%

[売上高]

前年同期から6.2%増加し、278億5千万円となりました。

これは、主力の国内医療用医薬品事業において、緑内障・高眼圧症治療剤「タプロス点眼液」・「コソプト配合点眼液」、角結膜疾患治療剤「ジクアス点眼液」等の成長に加えて、海外における普及促進活動により、当社製品の市場浸透が進んだことによるものです。

[営業利益]

前年同期から17.0%増加し、77億6千2百万円となりました。

売上原価は86億5千2百万円となり、売上原価率は31.1%となりました。販売費及び一般管理費については114億3千5百万円となり、このうち研究開発費は31億1千9百万円となりました。

[経常利益]

前年同期から14.6%増加し、81億8千8百万円となりました。

[四半期純利益]

前年同期から20.7%増加し、55億2千6百万円となりました。

② 当第1四半期連結累計期間のセグメント別業績の状況

参天製薬グループは、医薬品事業とその他事業の二つのセグメントから構成されます。売上高の多くは医薬品事業によっており、その全売上高に占める比率は97.2%になります。

医薬品事業の売上高は、前年同期から5.1%増加し270億8千万円となりました。営業利益は、75億4千7百万円となりました。一方、その他事業の売上高は、眼内レンズ「エタニティー」が順調に市場に浸透した結果、前年同期から70.1%増加し7億7千万円となりました。営業利益は、2億1千5百万円となりました。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率	金額	前年同期増減率
医薬品事業	23,089	3.8%	3,990	13.4%	27,080	5.1%
医療用医薬品	21,944	3.2%	3,986	13.3%	25,930	4.7%
うち眼科薬	19,070	3.0%	3,887	14.5%	22,957	4.8%
うち抗リウマチ薬	2,570	0.0%	45	138.0%	2,616	1.1%
うちその他医薬品	304	75.8%	53	△48.0%	357	29.9%
一般用医薬品	1,144	16.2%	4	401.4%	1,149	16.5%
その他事業	441	40.9%	329	135.4%	770	70.1%
医療機器	438	41.2%	329	135.4%	767	70.5%
その他	2	4.8%	—	—	2	4.8%
合計	23,530	4.3%	4,319	18.1%	27,850	6.2%

(注) 各セグメントの売上高は、外部顧客に対する売上高を表しています。

[医薬品事業]

(医療用医薬品)

<眼科薬>

[国内]

医療施設ごとの潜在ニーズとその変化を的確に捉えた医薬情報提供などの普及促進活動を展開し、国内医療用眼科薬の売上高は、前年同期と比べ3.0%増加し190億7千万円となりました。

緑内障・高眼圧症の治療ニーズに合致した新製品「タプロス点眼液」は順調に市場浸透した結果、売上高は前年同期と比べ7.5%増加し17億4千2百万円となりました。

角結膜疾患治療剤領域では、ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害の治療剤「ヒアレイン点眼液」が、患者さんのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高める製品特性と、患者さんや医療現場に対するドライアイの疾患啓発活動などにより順調な伸びを示し、売上高は、前年同期と比べ4.7%増加し48億5千4百万円となりました。また、平成22年4月にドライアイ治療剤として日本での製造販売承認を取得した新製品「ジクアス点眼液」は、平成22年12月に発売を開始し、売上高は5億2千万円となりました。

合成抗菌点眼剤領域では、市場環境の変化などにより、「クラビット点眼液」、「タリビット点眼液」両剤合わせた売上高は、前年同期と比べ3.0%減少し33億1千3百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域では、引き続き医薬情報提供活動に注力し、加えてスギ花粉の飛散が前年同期と比べ大規模であったため、「リボスチン点眼液」の売上高は、前年同期と比べ14.7%増加し、5億8千5百万円となりました。

[海外]

海外における医療用眼科薬の売上高は、円換算ベースで前年同期と比べ14.5%増加し38億8千7百万円となりました。

欧州では医薬情報提供などの普及促進活動に注力した結果、ドイツにおいて新製品の緑内障・高眼圧症治療薬「タフロタン」が市場に浸透してきました。

アジアにおいても、普及促進活動の展開により、中国、韓国を中心に、当社製品の市場浸透が進みました。

<抗リウマチ薬>

抗リウマチ薬の売上高は、「リマチル錠」、「アザルフィジンEN錠」ならびに「メトレート錠」が、国内において関節リウマチ治療ガイドラインで強く推奨される製剤に位置付けられていることもあり、前年同期と比べ1.1%増加し26億1千6百万円となりました。

<その他医薬品>

その他医薬品には、技術提携（導出）契約に基づく収入、受託製造等が含まれます。

その他医薬品の売上高は、前年同期と比べ29.9%増加し3億5千7百万円となりました。

(一般用医薬品)

一般用医薬品の売上高は、サンテFX発売20周年記念キャンペーンによる販売促進活動を展開し、前年同期と比べ16.5%増加の11億4千9百万円となりました。

[その他事業]

(医療機器)

医療機器の売上高は、高屈折率の亚克力ル素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」の普及促進活動に注力した結果、前年同期から70.5%増加し7億6千7百万円となりました。

(その他)

その他の売上高は、(株)クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものであり、2百万円となりました。

③ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として研究開発を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な臨床開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジン誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）は、平成20年12月より日本で「タプロス点眼液」として販売中です。欧州では平成20年6月のドイツに始まり、現在、20カ国で自社販売しています。アジアにおいては、平成22年3月以降、香港、韓国に続き、新たにインドネシアとシンガポールで発売しました。中国では承認申請中です。また、平成21年4月には、メルク社（米国）とのライセンス契約締結により、西欧（ドイツを除く）、北米、南米、アフリカにおける販売権をメルク社に許諾しました。メルク社は平成21年9月以降、イギリス、スペイン、イタリアなど合計11カ国でタフルプロストを販売しており、米国で承認申請中です。この結果、タフルプロストの販売国は、全世界で36カ国となりました。

緑内障・高眼圧症を適応症とするDE-111（一般名：タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩）は、日本と欧州で第Ⅲ相試験を実施中です。また、緑内障・高眼圧症を適応症とするアデノシンA_{2A}受容体作動薬DE-112（一般名：未定）は、第Ⅰ相／前期第Ⅱ相試験を米国で実施中です。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、平成22年12月より日本で「ジクアス点眼液」として販売中です。また、中国では、第Ⅲ相試験を実施中で、韓国では承認申請中です。ドライアイを含む角結膜上皮障害を適応症とするDE-101（一般名：リボグリタゾン）は、日本での後期第Ⅱ相試験、米国での高用量追加の第Ⅰ相／第Ⅱ相試験を終了し、開発方針の検討を行い、涙液の状態を改善する薬剤として、新たに米国で第Ⅱ相試験を準備中です。また、遷延性角膜上皮欠損を適応症とするDE-105（一般名：未定）は、日本で第Ⅱ相試験を実施中です。さらに、選択的グルココルチコイド受容体作動薬DE-110（一般名：未定）も、ドライアイを含む角結膜上皮障害を対象とする第Ⅱ相試験を米国で実施中です。

網膜領域において、糖尿病黄斑浮腫を適応症とするDE-102（一般名：ベタメタゾンDDS）は、第Ⅱ相／第Ⅲ相試験を日本で開始しました。また、DE-109（一般名：シロリムス）は、米国でぶどう膜炎を適応症とする第Ⅲ相試験を実施中です。

外眼部感染症を適応症とするDE-108（一般名：レボフロキサシン（1.5%））は、平成22年12月に製造販売承認を取得し、平成23年6月に「クラビット点眼液1.5%」として、日本で発売しました。

また、アレルギー性結膜炎を適応症として、DE-114（一般名：エピナスチン塩酸塩）を日本ベーリンガーインゲルハイム社より導入し、日本で第Ⅲ相試験を実施中です。

関節リウマチを適応症とするDE-098（一般名：未定）は、日本で第Ⅱ相試験を実施中です。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期末の資産は、前連結会計年度末と比べ27億9千4百万円減少し、1,820億7百万円となりました。現金及び預金の減少、有価証券の減少などが要因です。

負債は、前連結会計年度末と比べ45億5千4百万円減少し、238億4千3百万円となりました。未払法人税等の支払い、賞与引当金の取崩しなどが要因です。

純資産は、前連結会計年度末と比べ17億6千万円増加し、1,581億6千4百万円となりました。利益剰余金の増加などが要因です。

これらの結果、自己資本比率は、前連結会計年度末と比べ2.2ポイント増加し、86.7%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期末までの営業活動によるキャッシュ・フローは、10億6千9百万円の収入となりました。税金等調整前四半期純利益は81億8千2百万円であり、たな卸資産の増加が9億3千7百万円、法人税等の支払いが45億9百万円あったことなどによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、18億5千万円の収入となりました。定期預金の払戻による収入が18億9千5百万円あったことなどによります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、41億3千4百万円の支出となりました。配当金の支払いが42億2千5百万円あったことなどによります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、前連結会計年度末と比べ12億1千8百万円減少し、712億6千4百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期の業績は概ね予定通り推移しており、平成23年5月10日に公表した連結業績予想は修正していません。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）および「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しています。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	65,558	63,455
受取手形及び売掛金	38,980	39,103
有価証券	13,332	12,126
商品及び製品	11,784	12,708
仕掛品	449	593
原材料及び貯蔵品	2,469	2,409
繰延税金資産	1,986	1,143
その他	3,106	3,849
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	137,668	135,388
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	40,719	40,811
減価償却累計額及び減損損失累計額	△27,268	△27,540
建物及び構築物（純額）	13,450	13,271
機械装置及び運搬具	11,153	11,309
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,520	△9,687
機械装置及び運搬具（純額）	1,632	1,622
土地	8,216	8,213
リース資産	233	241
減価償却累計額及び減損損失累計額	△47	△52
リース資産（純額）	186	189
建設仮勘定	186	496
その他	10,937	11,083
減価償却累計額及び減損損失累計額	△9,653	△9,759
その他（純額）	1,283	1,324
有形固定資産合計	24,956	25,117
無形固定資産		
ソフトウェア	952	842
その他	39	59
無形固定資産合計	991	902
投資その他の資産		
投資有価証券	12,141	11,997
繰延税金資産	7,538	7,149
その他	1,505	1,452
投資その他の資産合計	21,185	20,599
固定資産合計	47,133	46,619
資産合計	184,801	182,007

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,031	5,942
未払金	8,444	7,733
未払法人税等	4,631	1,701
賞与引当金	2,712	1,313
その他	2,285	3,261
流動負債合計	24,104	19,951
固定負債		
退職給付引当金	3,266	3,279
役員退職慰労引当金	453	164
資産除去債務	160	160
その他	412	286
固定負債合計	4,292	3,891
負債合計	28,397	23,843
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,614	6,662
資本剰余金	7,968	8,016
利益剰余金	147,578	148,752
自己株式	△1	△3
株主資本合計	162,159	163,428
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△443	△339
為替換算調整勘定	△5,618	△5,227
その他の包括利益累計額合計	△6,061	△5,567
新株予約権	305	303
純資産合計	156,404	158,164
負債純資産合計	184,801	182,007

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	26,212	27,850
売上原価	8,540	8,652
売上総利益	17,672	19,198
販売費及び一般管理費	11,034	11,435
営業利益	6,637	7,762
営業外収益		
受取利息	8	11
受取配当金	222	220
生命保険配当金	117	143
為替差益	52	3
その他	127	60
営業外収益合計	528	439
営業外費用		
支払利息	12	5
その他	5	7
営業外費用合計	18	13
経常利益	7,147	8,188
特別利益		
固定資産処分益	5	—
投資有価証券売却益	—	10
特別利益合計	5	10
特別損失		
固定資産処分損	3	1
投資有価証券売却損	—	15
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	108	—
特別損失合計	111	17
税金等調整前四半期純利益	7,040	8,182
法人税、住民税及び事業税	1,231	1,429
法人税等調整額	1,230	1,226
法人税等合計	2,462	2,656
少数株主損益調整前四半期純利益	4,578	5,526
四半期純利益	4,578	5,526
少数株主損益調整前四半期純利益	4,578	5,526
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△764	104
為替換算調整勘定	△638	390
その他の包括利益合計	△1,402	494
四半期包括利益	3,176	6,020
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,176	6,020
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4月 1日 至 平成22年 6月 30日)	当第1 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4月 1日 至 平成23年 6月 30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	7,040	8,182
減価償却費	739	664
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	135	12
受取利息及び受取配当金	△230	△232
支払利息	12	5
売上債権の増減額 (△は増加)	△2,611	△31
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△211	△937
仕入債務の増減額 (△は減少)	△375	△282
その他	△1,595	△2,028
小計	2,902	5,352
利息及び配当金の受取額	230	230
利息の支払額	△10	△4
法人税等の支払額	△6,505	△4,509
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,382	1,069
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△495	△8
定期預金の払戻による収入	674	1,895
有価証券の取得による支出	—	△708
有価証券の売却による収入	—	1,007
固定資産の取得による支出	△307	△655
固定資産の売却による収入	185	—
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
投資有価証券の売却による収入	1	322
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	56	1,850
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△3,276	△4,225
その他	63	90
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,213	△4,134
現金及び現金同等物に係る換算差額	△298	△4
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△6,837	△1,218
現金及び現金同等物の期首残高	64,348	72,482
現金及び現金同等物の四半期末残高	57,511	71,264

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

1. 前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	25,759	453	26,212	—	26,212
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	32	32	△32	—
計	25,759	485	26,245	△32	26,212
セグメント利益又は損失 (△)	6,730	△93	6,637	—	6,637

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っています。

2. 当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額 (注) 2
	医薬品				
売上高					
外部顧客への売上高	27,080	770	27,850	—	27,850
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	29	29	△29	—
計	27,080	800	27,880	△29	27,850
セグメント利益	7,547	215	7,762	—	7,762

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っています。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 連結参考資料

(1) 主要製品売上高

品目名 有効成分・剤形	薬効分類	平成23年3月期			平成24年3月期		
		第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
クラビット点眼液 レボフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	3,284 (5.9)	6,950 (4.7)	12,904 (5.4)	3,226 (△1.8)	6,939 (△0.2)	12,917 (0.1)
タリッド点眼液 オフロキサシン点眼液	合成抗菌点眼剤	606 (△19.8)	1,254 (△13.0)	2,419 (△0.2)	461 (△23.8)	1,157 (△7.7)	2,157 (△10.8)
タブロス点眼液 タフルプロスト点眼液	緑内障治療剤	1,631 (90.3)	3,306 (66.6)	6,633 (41.5)	1,779 (9.1)	3,993 (20.8)	8,438 (27.2)
コソプト配合点眼液 ドルゾラミド塩酸塩/ チモロールマレイン酸塩点眼液	緑内障治療剤	417 —	1,003 —	2,935 —	1,347 (223.2)	2,540 (153.1)	5,521 (88.1)
チモプトール点眼液 チモロールマレイン酸塩点眼液	緑内障治療剤	624 (△18.5)	1,174 (△22.4)	2,152 (△24.0)	467 (△25.1)	775 (△34.0)	1,254 (△41.7)
チモプトールXE点眼液 チモロールマレイン酸塩持続性点眼液	緑内障治療剤	848 (△5.9)	1,579 (△11.7)	2,891 (△16.8)	657 (△22.5)	1,250 (△20.8)	2,367 (△18.1)
デタントール点眼液 ブナゾシン塩酸塩点眼液	緑内障治療剤	549 (△4.5)	1,079 (△4.2)	2,064 (△4.8)	509 (△7.2)	1,029 (△4.6)	2,054 (△0.5)
レスキュラ点眼液 イソプロピル ウノプロストン点眼液	緑内障治療剤	770 (△24.0)	1,471 (△25.7)	2,777 (△24.3)	647 (△15.9)	1,102 (△25.1)	2,146 (△22.7)
リボスチン点眼液 レボカバステチン塩酸塩点眼液	抗アレルギー 点眼剤	511 (△9.6)	1,090 (△14.3)	3,800 (17.7)	585 (14.7)	1,395 (28.0)	3,065 (△19.4)
ヒアレイン点眼液 ヒアルロン酸ナトリウム点眼液	角結膜疾患治療剤	5,212 (△3.5)	10,639 (△3.1)	21,257 (0.2)	5,528 (6.1)	11,274 (6.0)	22,132 (4.1)
ジクアス点眼液 ジクアホソルナトリウム点眼液	角結膜疾患治療剤	— —	— —	745 —	520 —	1,353 —	3,298 (342.7)
フルメロン点眼液 フルオロメロン点眼液	抗炎症点眼剤	1,051 (△6.6)	2,179 (△5.5)	4,753 (7.2)	921 (△12.3)	2,095 (△3.8)	4,145 (△12.8)
カリーユニ点眼液 ピレノキシシン点眼液	老人性 白内障治療剤	934 (△0.6)	1,939 (0.3)	3,728 (0.0)	935 (0.0)	1,829 (△5.7)	3,757 (0.8)
オペガンハイ眼粘弾剤 ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤	眼科手術補助剤	830 (△5.1)	1,650 (△6.7)	3,226 (△6.0)	762 (△8.2)	1,690 (2.5)	3,301 (2.3)
リマチル錠 ブシラミン錠	抗リウマチ剤	1,055 (△8.6)	2,062 (△9.6)	3,944 (△9.4)	1,009 (△4.4)	1,946 (△5.6)	3,725 (△5.6)
アザルフィジンEN錠 サラゾスルファピリジン腸溶錠	抗リウマチ剤	1,082 (△1.2)	2,109 (△3.3)	4,106 (△2.6)	1,056 (△2.4)	2,104 (△0.3)	4,097 (△0.2)
メトレート錠 メトレキサート錠	抗リウマチ剤	299 (27.8)	608 (24.8)	1,250 (25.6)	398 (32.9)	786 (29.3)	1,584 (26.7)
一般用医薬品		986 (△24.0)	2,507 (△10.2)	4,723 (△10.1)	1,149 (16.5)	2,447 (△2.4)	4,657 (△1.4)

下段：対前期伸長率(%)

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。

(2) 医薬品開発状況

■ 医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売		
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	旭硝子社と共同	日本						2008年12月		
				欧州							2008年6月	
				米国	(導出)							
				ラテンアメリカ	(導出)							2010年8月
				アジア								2010年3月
プロスタグランジン系緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月、国内での販売開始。欧州では、ドイツ、デンマーク等で販売中。2009年4月、米国等での開発権をメルク社に許諾。アジアでは香港、韓国、インドネシア、シンガポールにて発売中。中国で現在承認申請中。												
ジクアホソルナトリウム	DE-089	ドライアイ	インスパイア社	日本						2010年12月		
				アジア						2011年3月		
角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年12月、日本にて発売。中国にてフェーズ3実施中、韓国で現在承認申請中。												
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	MSD社	日本								
視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。国内ではMSD社により片頭痛治療剤として販売中。												
リボグリタゾン	DE-101	角結膜上皮障害 (ドライアイを含む)	第一三共社	米国	(フェーズ2準備中)							
抗炎症作用などに基づく涙液の質及び量の改善効果を期待。新たに米国でのフェーズ2試験を準備中。												
ベタメタゾンDDS	DE-102	糖尿病黄斑浮腫	オークウッド社と共同	日本	(フェーズ2/3)							
ドラッグデリバリーシステムの概念を取り入れたステロイドマイクロスフェア製剤。研究段階では眼局所への投与により長く安定した薬効持続性を確認。商業用スケールでの製造技術開発で米国オークウッド社と提携。												
未定	DE-105	遷延性角膜上皮欠損	自社	米国								
				日本								
既存療法では難治性の遷延性角膜上皮欠損に対し、角膜上皮細胞伸展促進作用により、角膜上皮欠損を修復する効果と高い安全性を期待。												
レボフロキサシン(1.5%)	DE-108	外眼部感染症	第一三共社	日本						2011年6月		
ニューキノロン系抗菌薬の高濃度製剤。2011年6月に日本にて発売。												
シロリムス	DE-109	ぶどう膜炎	自社	米国								
免疫抑制作用、血管新生抑制作用などを有する硝子体内注射剤。2010年6月に全世界での開発・製造・販売権を取得。												
未定	DE-110	角結膜上皮障害 (ドライアイを含む)	自社	米国								
選択的グルココルチコイド受容体作動薬(SEGRA)。ドライアイを含む角結膜上皮障害を対象として、米国でフェーズ2実施中。												

■ 医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト／チモロールマレイン酸塩	DE-111	緑内障・高眼圧症	自社	日本						
			共同開発	欧州						

プロスタグランジン関連剤およびβ遮断剤の配合剤。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-112	緑内障・高眼圧症	クリニカルデータ社	米国	(フェーズ1/2a)					

高い選択性を持つアデニンA_{2A}受容体作動薬。プロスタグランジン系とは異なり、主経路(線維柱帯)からの房水流出を促進する新規作用機序の緑内障・高眼圧症治療剤。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
エピナスチン塩酸塩	DE-114	アレルギー性結膜炎	日本ベーリンガーインゲルハイム社	日本						

H1拮抗作用と膜安定化作用を併せ持つアレルギー性結膜炎治療剤。

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
未定	DE-098 (抗APO-1抗体)	関節リウマチ	セントコア社	日本						

RA患者の罹病関節内でアポトーシスを誘導する関節注入剤。セントコア社から抗APO-1抗体の国内外での開発販売権を導入。

■ 2010年度通期発表時(2011年5月10日)からの変更点

開発コード	効能・効果	開発ステージ	地域	変更点
DE-085	緑内障・高眼圧症	発売	アジア	発売国追加

開発コード	効能・効果	開発ステージ	地域	変更点
DE-101	角結膜上皮障害 (ドライアイを含む)	フェーズ2b終了	日本	フェーズ2b終了
		フェーズ1/2終了	米国	フェーズ1/2終了
		フェーズ2* 準備中	米国	フェーズ2*準備開始

開発コード	効能・効果	開発ステージ	地域	変更点
DE-102	糖尿病黄斑浮腫	フェーズ2/3	日本	フェーズ2/3開始

開発コード	効能・効果	開発ステージ	地域	変更点
DE-108	外眼部感染症	発売	日本	発売開始

*新しいターゲットプロファイルによる試験

(3) 設備投資、減価償却費、リース料および研究開発費の実績ならびに見込額

■設備投資

(単位 百万円)

	平成23年3月期			平成24年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
設備投資額	192	497	1,709	630	2,670	6,210

■減価償却費

(単位 百万円)

	平成23年3月期			平成24年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
総額	687	1,379	2,808	646	1,380	2,950
製造経費	365	730	1,532	337	730	1,530
販売管理費	137	274	512	141	280	630
研究開発費	185	373	762	167	370	790

(注)長期前払費用および営業権の償却費は除いています。

■リース料

(単位 百万円)

	平成23年3月期			平成24年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
総額	66	128	156	10	80	160
製造経費	46	92	94	0	0	10

■研究開発費

(単位 百万円)

	平成23年3月期			平成24年3月期		
	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	第2四半期 累計見込	通期見込
研究開発費	3,380	6,379	13,221	3,119	7,600	16,000
対売上高比	12.9%	11.8%	11.9%	11.2%	13.3%	13.8%

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。